

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式						
M314M203		臨床病態学(麻酔・救急) (Clinical Pathophysiology : Anesthesiology and Emergency medicine)					コース共通専門分野							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
必修	2	2	医学部先進医療科学科	前期	木2	日本語		オムニバス						
担当教員	氏名 安部 隆三、松本 重清、新宮 千尋 E-mail 安部 ; ryuzoabe@oita-u.ac.jp、松本 ; sigekiyo@oita-u.ac.jp、新宮 ; cshingu@oita-u.ac.jp 内線													
授業の概要	医療では予測できない事象が必ず発生する(医療の不確実性)。中でも患者急変時の対応能力は医療者に必須である。ここでは、先進医療を安全に実施するために必要な麻酔・救急医学領域の能力修得を行う。麻酔は患者の意識及び痛みを取り除くだけでなく、呼吸・循環等の全身管理と患者急変時対応能力が重要であり、麻酔方法を含めた全身管理を学ぶ。救急では、心肺蘇生法、外傷、中毒、災害医療だけでなく患者救命のための全身管理を学ぶ。この領域では先進医療として多くの機器が導入されており、麻酔・救急関連領域の先進医療も学ぶ。													
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1 手術室・集中治療・救急医療での役割を理解し、説明できる。														
目標2 緊急度の高い患者の診察法、検査法、治療法を学び、説明できる。														
目標3 救急医療におけるチーム医療と救急医療システムを理解し、説明できる。														
目標4														
目標5														
目標6														
目標7														
目標8														
目標9														
目標10														
各DPへの関連度(計10)						4	3				3			
授業の内容														
1 麻酔科学(総論) : 麻酔科学の歴史、手術室での麻酔、心肺脳蘇生 ...【手術部】														
2 麻酔科学(各論) : 全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、局所麻酔、伝達麻酔 ...【手術部】														
3 麻酔科学(各論) : ペインクリニック(各種神経ブロック・対象疾患)、緩和医療 ...【麻酔科】														
4 麻酔科学(各論) : 集中治療(呼吸管理・循環管理・術後管理)と生体機能代行装置学 ...【麻酔科】														
5 救急医学・集中治療医学(総論) 救急・集中治療の体制と特徴 ...【救急科】														
6 救急医学・集中治療医学(各論) : 心肺脳蘇生と人工臓器 ...【救急科】														
7 救急医学・集中治療医学(各論) ICU・CCU・NICU ...【麻酔科】														
8 救急医学・集中治療医学(各論) : 患者管理及び人工臓器管理 ...【救急科】														
9 救急医学・集中治療医学(各論) : 生理学検査及び処置(呼吸器系、循環器系、代謝・腎臓系、神経系) ...【麻酔科】														
10 救急医療(各論) : 一般的救急措置、救急医療システム、救急医療体制、チーム医療 ...【救急科】														
11 救急医療(各論) : 救急診療上必要な検査(心電図、超音波、CT等) ...【救急科】														
12 救急医療(各論) : 救急診療上必要な検査(一次救命処置/BLS、輸血検査/血液型遺伝と検査) ...【救急科】														
13 手術医学(各論) : 感染防止、手術用機器及びロボット手術 ...【手術部】														
14 手術医学(各論) : 麻酔器・麻酔関連機器、モニタ機器 ...【麻酔科】														
15 まとめ														
ラーニング チェック シート グループ	A:知識の定着・確認		A : 発問を活用しつつ、ディスカッションを行う					工夫 その他 の	Moodle上に講義資料をアップロードして学生が使用できる環境を整備する。					
	B:意見の表現・交換		B : 症例提示を行い、実際に臨床での評価・判断についてディスカッションを行う											
	C:応用志向													
	D:知識の活用・創造													
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		参考書、配布資料を用いた予習を 1 時間 / 日程度求める											
	事後学修		将来の国家試験に備え、修得した新たな知識を普段使用している学習書に追記していく(2h/日)											
	想定時間合計		45											
教科書	教科書は指定しない													
参考書	古家 仁 標準麻酔科学 医学書院; 第7版 2018/03 ISBN-10: 4260030302 稲田英一 ICUブック 第4版 メディカルサイエンスインターナショナル 2015/11/30 ISBN-10: 4895928314 清水 敬樹、ICU実践ハンドブック改訂版~病態ごとの治療・管理の進め方、羊土社、2019/3、ISBN-10 : 4758118450 標準救急医学 医学書院; 第5版 2013/12 ISBN-10: 4260017551 外傷初期診療ガイドライン-JATEC; 第5版 へるす出版 2017/1 ISBN-10: 4892698989													

